

アレルギー疾患に関する3歳児全都調査(概要版)

○ 調査目的

都内の3歳児におけるアレルギー疾患のり患状況及び3歳児の保護者におけるアレルギー疾患対策に関するニーズを把握し、今後のアレルギー疾患対策を推進していくための基礎資料とする。
本調査は平成11年度から5年毎に実施している。

○ 調査対象

令和元年10月に都内の区市町村で実施された3歳児健康診査の受診者及びその保護者(8,343人)

○ 調査方法

区市町村の協力により、3歳児健康診査受診者の保護者に対し無記名による自記式調査票を配布
・回収(郵送またはWEB入力フォーム)

○ 回答数

2,727人(回収率32.7%)

○ 主な調査内容

- ・アレルギー疾患(ぜん息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎及びじんましん)のり患状況(症状の有無、医師の診断の有無等)
- ・アレルギー疾患に対する緊急時対応
- ・アレルギー疾患対策に関する希望 など

1 3歳までに何らかのアレルギー疾患があると医師に診断された子供は約4割

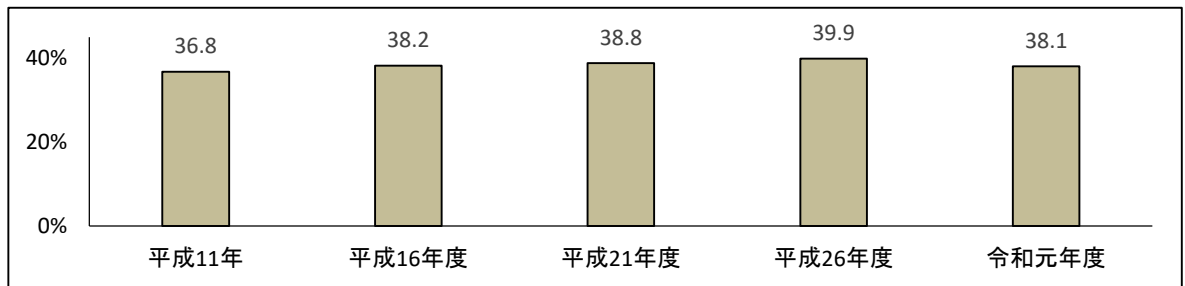


図1 3歳までに何らかのアレルギー疾患と診断された児※1の割合

※1 3歳までに医師により、何らかのアレルギー疾患(ぜん息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎またはじんましん)と診断された児

2 アレルギー疾患にり患している子供の割合は、前回調査時に比べ、ぜん息は1.9ポイント減少、増加傾向にあった食物アレルギーは2.2ポイント減少

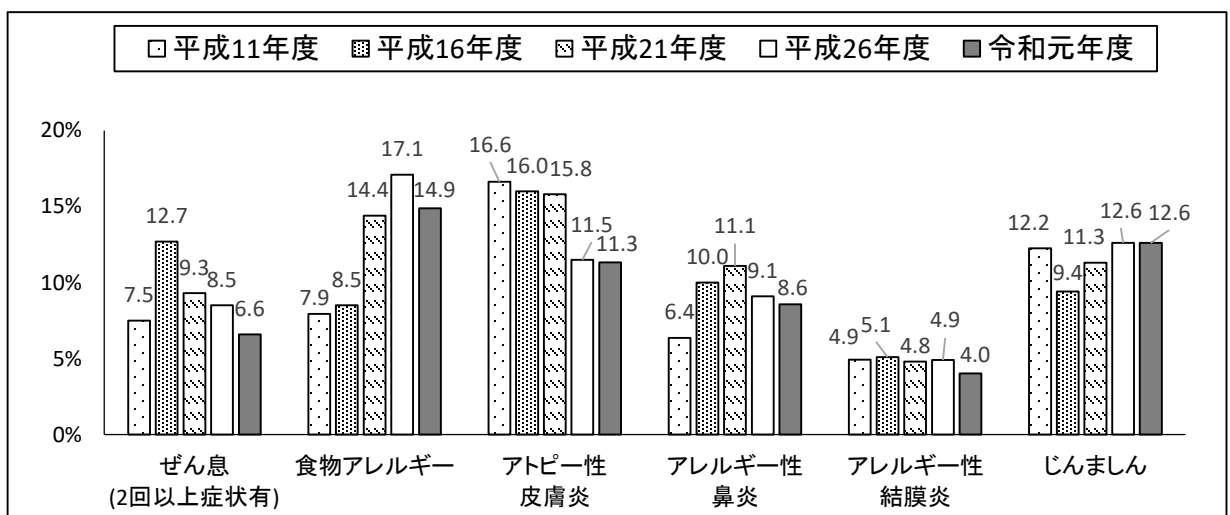


図2 各アレルギー疾患のり患状況の推移(3歳までにアレルギー疾患と診断された児の割合)

3 食物アレルギーと診断された子供のうち1割超がショック症状※2を経験

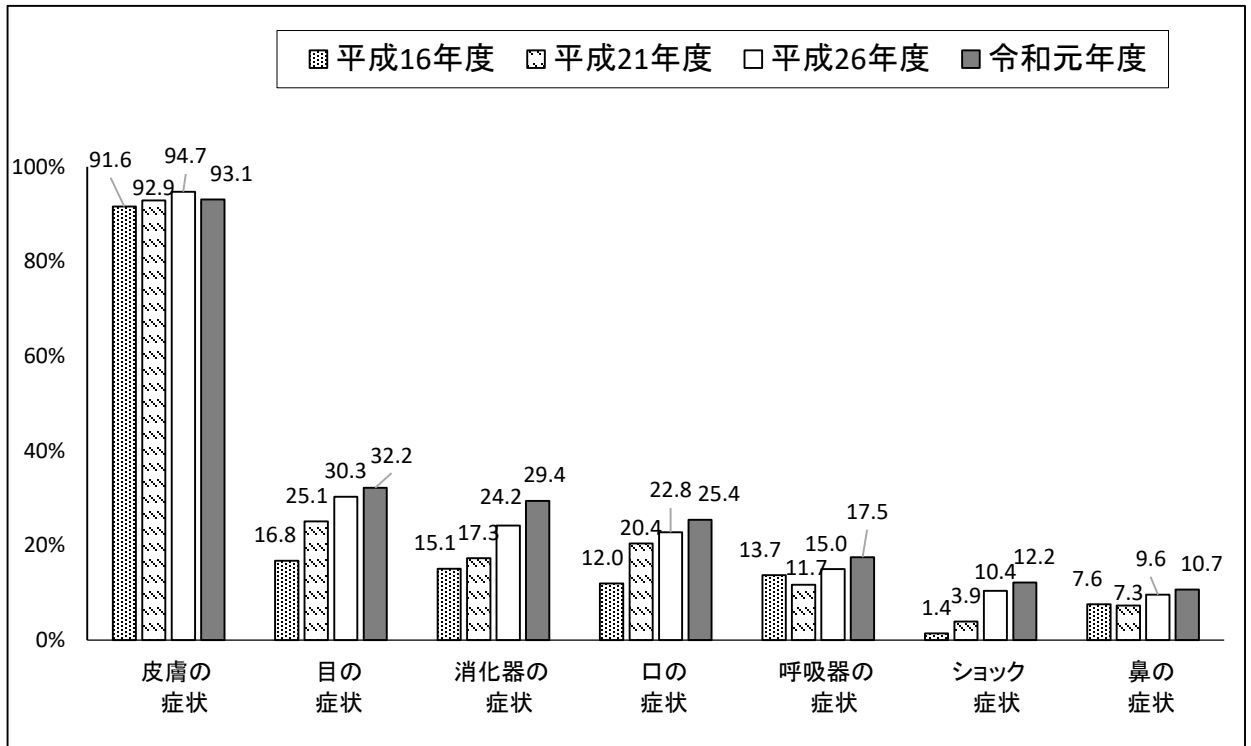


図3 食物アレルギーと診断された児における食物アレルギーによる誘発症状(複数回答)

※2 ショック症状：本調査では、意識がない、意識もうろう、ぐったり、尿や便を漏らす、脈が触れにくい、唇やつめが青白い、のいずれかの症状を指す

4 食物アレルギーと診断された子供のうち、約2割が誤食を経験し、そのうち自宅での発生が約7割

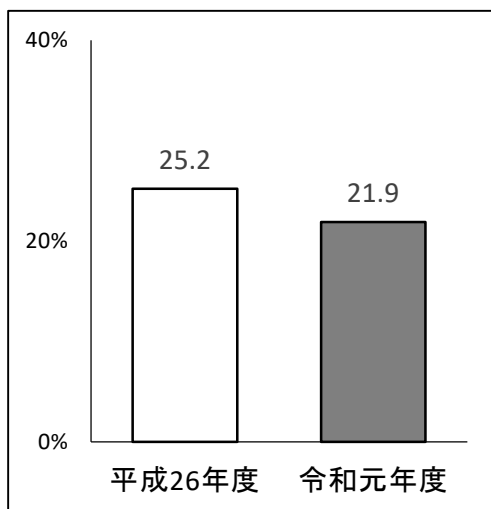


図4 食物アレルギーと診断された児における誤食を経験した児の割合

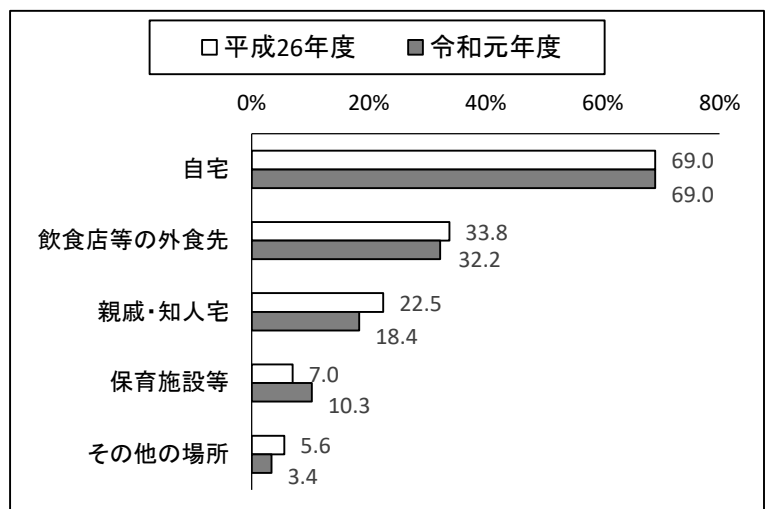


図5 誤食の起こった場所(複数回答)

5 アレルギー関連情報を医療機関から入手している保護者の割合は約8割

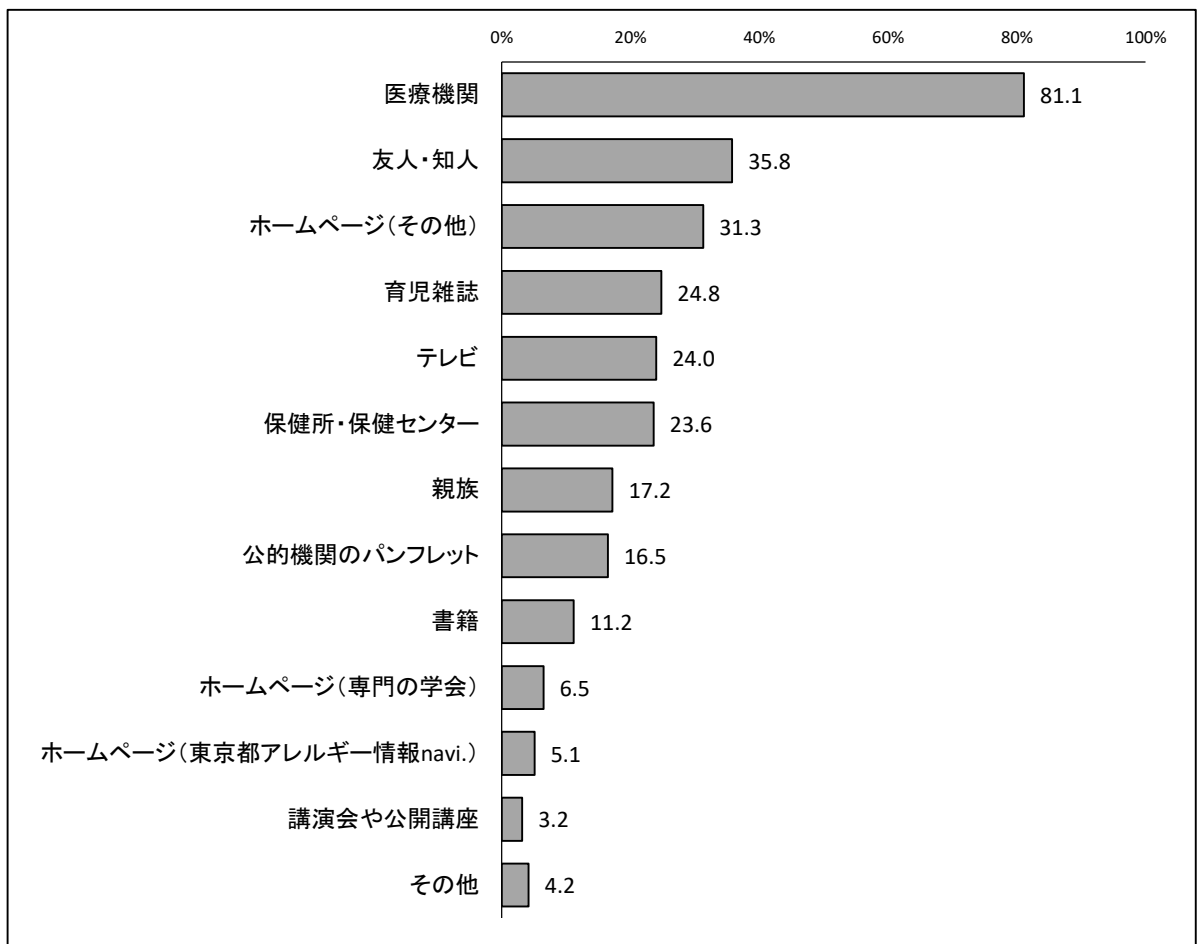


図6 アレルギーに関する情報の入手方法(複数回答)

6 多くの保護者がアレルギー疾患に関する情報提供等を希望

保育施設・幼稚園等への希望	アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上 (46.6%)
行政(都や区市町村)への希望	住民へのアレルギー疾患に関する知識や情報の提供 (42.9%)
医療機関への希望	薬や治療法などの十分な説明と相談対応 (57.9%)